

三浦市立南下浦小学校

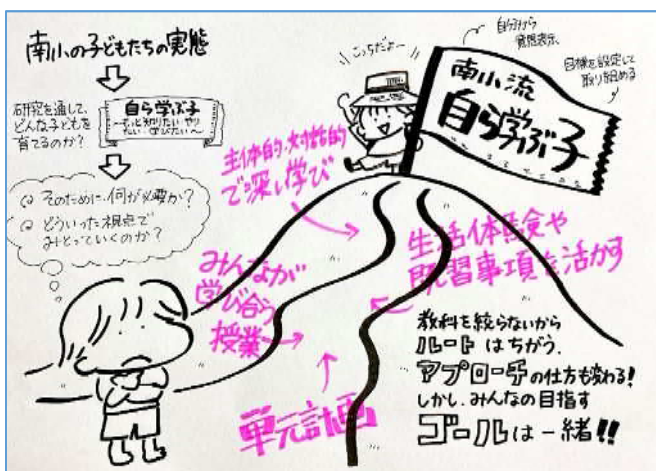
研究テーマ：自ら学ぶ子 ～もっと知りたい・やりたい・学びたい～

1. 実践の目的

本校児童の課題として、基礎学力の定着が不十分、学びに対して受け身、「わからない」「わかった」と自己表現をすることが苦手という点がある。

そこで本研究では、研究テーマ「自ら学ぶ子」に迫るために目指す児童像として2本の柱立てをした。

- ① 友だちの意見を受け入れ自分から意思表示ができる子
- ② 自分なりの目標を設定して取り組める子
 - ・自分自身との対話を通し、わからないことを伝えることができる。
 - ・相手の考えを認め、その上で自分の考えを伝えることができる。
 - ・既習事項や生活経験を生かし、自ら学びたいテーマを設定することができる。



<イメージ図>

<重点>

児童の実態把握 見通しを持った単元計画
 みんなで学ぶ・学び合う授業づくり
 既習事項や生活体験を生かした学び
 主体的・対話的で深い学び
 教科を絞らず・あらゆる視点からアプローチ
 → **自ら学ぶ子**

2. 実践の内容

1) 基礎学力の向上

朝の15分間をベーシックタイムとし、国語、算数の基本的な学習問題を解く時間とした。特に国語では児童が苦手とする「言葉」に特化したドリルを学校で購入し取り組んだ。

ステップ	聴き方	1年	2年	3年	4年	5年	6年	話し方	話し合い方
ステップ6 (6年生)	話し手の考えと比較し、自分の考えをまとめるながら聴く。						*	・人の発言や考えにつながらず話す。 ・自分の考えが伝わるように表現を工夫しながら話す。(資料の活用など)	・互いの立場や意図を明確にしながら討議的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしながら話し合う。
ステップ5 (5年生)	話し手の目的や自分が関心とする意図に応じて、話の内容を捉えながら聴く。(共通点や相違点)					*	*	・事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えながら話す。 ・自分の考えが伝わるように表現を工夫しながら話す。(考えとその他のわけ-区切って話すなどの技法)	・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぎながら話し合う。
ステップ4 (4年生)	話し手が伝えたいことや聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもちながら聴く。			*	*	*	*	・話の中心が明確になるよう話の構成を考えながら話す。 ・聞の取り方などを工夫しながら話す。	・互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめながら話し合う。
ステップ3 (3年生)	必要なことを記録したり質問したりしながら聴く。		*	*	*	*	*	・相手に応わるように、理由や事例などを挙げながら話す。 ・話の中心や話す場面を意識して言葉の抑揚や強弱をつけながら話す。	・目的や進め方を確認し、割合などの役割を果たしながら話し合う。
ステップ2 (2年生)	相手に知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聴く。 ・話の内容を捉えて感想を持ちながら聴く。		*	*	*	*	*	・相手に応わるように、行動や経験に基づいて、話す順序を考えながら話す。 ・伝えたいことや相手に応じて、声の大きさや速さを工夫しながら話す。	
ステップ1 (1年生)	・話す人の方を見て聴く。 ・人の話を最後まで静かに聴く。 ・うなずきながら聴く。	*	*	*	*	*	*	・みんなに聞こえる声の大きさを話す。 ・相手をみて話す。 ・さいごまではっきりと話す。	

<拡大掲示用ステップ表>

2) 「あたたかい聴き方・やさしい話し方」ステップ表の導入

本研究の特徴の一つに「教科を統一しない」という点がある。そのメリットとしては教科に関わらず活用できることが挙

げられる。そして、学年間の縦の繋がりを意識するために「聴き方・話し方」に注目しステップ表を作成した。

◆ステップ表の特徴

①1年～6年までのたての繋がりが見えることで今の目標や今後について児童や教員が見通しをもつことができる。

②達成できた所には印(花)をつけていくことで児童に達成感をもたせられる。

また、「ステップ表」を各教室に拡大掲示することと合わせて、今の自分たちの目標もA3程度の大きさにし、掲示を行った。



<A3 掲示用>

3) 授業づくりの工夫

①単元を見通した授業づくり

単元全体を見通し、児童にどのような力をつけさせたいか考えた。その結果必要に応じて順番を入れ替えたものもあった。また、今後は、次年度以降も継続的に指導した方が良い内容は、繰り返して指導を行うことも考えられる。

②研究主題との関わりの意識

目指す児童像に近づくために単元全体で手立てをとっていく。

4) 公開授業や、講師を招いての研修

基本的には全教員が公開授業を行った。一人ひとりが研究授業を行うことで、成果や課題を共有することができた。

また、外部講師を年に2度招き研修会を

行った。

3. 実践の成果

1) 研修や実践を通して

①「学習者中心の授業」を創造

教師主導型の授業から脱却し、子どもたちを中心とした授業づくりが大切だとわかった。そこで今後は、子どもたちの実態に応じて子どもたち主体の授業をつくっていくことを目指したい。

②「わからない」「こまった」を引き出す

普段から児童の疑問や悩みに耳を傾け、児童同士が、認め合い、発言しやすいような温かい学級風土をつくることが重要だと分かったため、今後も意識していきたい。

2) ステップ表の活用

教員も意識して授業に取り入れたり声かけをしたりすることができた。児童も、聴き方(頷く・相手の目を見る)が良くなった。

自然と意見に反応ができるようになった。系統性を意識することができた等があった。今までは自分の学年しか意識していなかったが、上の学年や、下の学年を意識することでスタートやゴールが明確になった。

4. 今後の展開

「ステップ表」を始めて間もないため、継続して取り組んでいく必要がある。教員も更に意識していかなければならない。

次年度は「学びのプラン」を導入していく予定である。「南下浦小学校の学びのプラン」を作成することによって教員だけではなく、児童が「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という見通しをもてるようにしていく。単元全体を見通して教員が日々の授業づくりをすることで、心に余裕をもって、授業に臨んでいきたい。